

-特集- 内子の子育て どうなってるの？

／へーそーなんや／

社会全体で子どもの成長を後押しするために、4月から「こども家庭庁」が発足されました。内子町でも2月から、伴走型相談支援や内子町出産・子育て応援ギフトが始まるなど、さらに子育て支援の充実を図っています。しかし、子育て施設の利用者から「内子町の子育ては充実している」との意見が聞かれる一方、出生数の減少には歯止めがかかっていません。

出産や子育てに関する考え方も多様化する今、子どもが産みやすい環境、子育てをしやすい環境を整えるために、若い世代の人たちの声を聞くことが重要です。

内子町では5年度から「第3期（令和7年度～11年度）内子町子ども・子育て支援事業計画」の計画づくりに着手する予定です。今回の特集では、多くの皆さんに内子町の未来の子育て環境に興味を持ってもらうため、内子町の支援策や、子育て中の皆さんの本音を紹介します。

子育て支援センターの「趣味の会」

不定期で開催する「趣味の会」がお勧めです。子育て支援センターや児童館の事業を利用するとき、最初の一步がなかなか踏み出せないという声を聞きます。趣味の会は、子育て中のママパパとの雑談から、「それいいね」って企画するものも多いです。例えば、アイシングクッキーや多肉植物、エアロビの体験など。特技を持った利用者さんが講師になることもあるので、会話が広がって、教える側も教わる側も楽しいですよ。子どもたちから少し離



私の
おススメ

内子町子育て支援センター
船本 佳代さん

れて何かに集中できる時間は、忙しい育児の息抜きにもなります。

他にも読み聞かせの「タンタン」や、「親子遊び」などもあるので、自分が行きやすそうな活動に参加してみてください。児童館も子育て支援センターも1度来てみたら、意外と敷居が低いことを知ってもらえると思います。内子町のホームページに掲載している「子育て通信」に各施設の事業などを掲載しているので、確認して足を運んでみてください。



読み聞かせ「タンタン」の様子

充実？ まちの支援 内子の子育て どうなってる Know?

子どもの元気な声や笑顔は父母や保護者の幸せ——。子どもたちの健やかな育ちは親の願いであり、地域の願いでもあります。内子町ではその笑顔を守るために、子育てに優しい取り組みで、子どもたちの健やかな育ちを応援し、安心して妊娠、出産、子育てができるまちづくりを目指しています。

全国的には令和4年の出生数が、速報値で初めて80万人を割り、少子化対策は待ったなしの課題です。「子ども家庭庁」が発足した4月からは、国が子育てに関連した取り組みに力を入れます。内子町でも3年度から、高校卒業ま

での医療費（保険診療分の医療費自己負担分）を全て助成。子育て用品の購入に使える「うちこ子育て応援券」など2種類の応援券の交付の他、発達自立支援センターなどを開設し、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供しています。

これからの年齢や家庭の状況に応じた、きめ細やかな支援を実現するために、若い世代の人々の声を聞くことが重要です。そのためには、まず、町がどんな支援をしているか知ってもらい、利用してもらうこと——。そこから生まれる声は、きつと未来の少子化対策にもつながります。

町がどんな子育て支援をしているか「知ってますか?」。住み続けられる町を目指し、子育て支援の充実を図っている内子町。もっと子どもを産みやすい、育てやすい町にするために、いろいろな意見を聞かせてほしい——

保健センターの「育児健康相談」

私のお勧めは月1回の「育児健康相談」です。特に初回となる2カ月児の相談は、該当する皆さんにご案内しているの、同じ月齢の親子と知り合いになれる場にもなっています。子どもの年齢が近いと悩みも共有できるので、この機会を利用して、ぜひママ友をつくってほしいです。次からの育児健康相談にも足が運びやすくなるので、各種予防接種や子育て支援センターなど、後々の子育てに役立つ入口

にもなると思います。

4年度からは「産後ケア事業」も始まりました。社会の変化もあり、子育てに悩む人が増えているようです。涙が止まらなくなったり、ひどく落ち込んだりするときなど、場合によっては専門的なケアを受けて心と体を休めることも大切です。一人で育児の大変さを背負わないためにも、ぜひ保健センターの事業を活用してください。



私の
おススメ

内子町保健センター
尾上 杏奈さん

こんな支援もあります

内子町産後ケア事業

産後の心と体の休息や赤ちゃんのケアを医療機関で受けられます。利用方法などについては気軽にご相談ください。

- 対象 出産後1年未満で、心身の不調や育児への不安がある母親と乳児
- 内容 お母さんの乳房ケアや授乳の指導、赤ちゃんの発育や発達の確認。親子の体調管理、育児に関する具体的な相談や指導など
- 利用料金・時間

種類	時間	食事	料金
宿泊型	24時間	3食	3,000円
日帰り型①	6時間	1食	1,000円
日帰り型②	10時間	2食	2,000円

【申込・問い合わせ】
内子町保健センター
☎0893(44)6155

ベビーシッター事業

少しの時間、子どもを預かってほしいときにご利用ください。子育て支援センターに登録したベビーシッターを紹介します。

- 日時 月～金曜日 午前8時～午後6時
- 対象 生後6カ月～12歳
- 料金 1人1時間500円



【申込・問い合わせ】
内子町子育て支援センター
☎0893(44)6355



むし歯予防教室



五十崎こども園の開放日

内子の子育て

どうなってる

Now?

育児中の皆さんに、内子の子育ての「今」について聞きました。パママの本音、生の声には子育ての大変さと、かけがえのない幸せな時間がにじみます。そして笑顔で元気に子育てできるヒントが、たくさんありました。

待望の子が生まれて幸せです。3人は欲しいと思っています。でも子どもが増えるほど、気持ちや金銭的な余裕がなくなりそうで、少し不安も……。今、次の子を産みたいと思うのは会社の子育て支援が手厚く、祖父母の協力があるからです。行政が将来の不安や負担を減らしてくれたら、もっと産みやすい社会になると思います。



honne 01
大久保彩さん
=神原=

3人欲しいけど
色々な面で心配
大久保彩

育児中はとにかく睡眠不足です。夫や義父母が協力的で、食事の準備や息子の相手をして、私の睡眠時間をつくってくれています。少しの時間でも楽になるので、一人で頑張らないことも大事なかなと思います。それができない人もいるので、周囲の人や行政が手を差し伸べやすい環境づくりが大切だなと思います。

honne 05
久保紋子さん
=内子12=



職場復帰前の
慣らし保育が
あるとうれいです
久保紋子

honne 03
山岡未来さん
=下重松=



一人で
頑張らない
山岡未来

夫婦ともども町外出身なのですが、内子町はいろいろな支援が充実していて驚きました。今不安なのは、4月から子どもを保育園に預けることです。私が職場に復帰するので、その前に少しでも保育園に通って慣れさせることができれば、復帰後の通園がスムーズになり、安心できると思います。

honne 06
山口紗妃さん
=内子18第1=



月1回の
育児相談が
すごく助かりました!!!
山口 紗妃

初めての子育ては知らないことばかりで、想像以上に大変。生後2週間くらいが本当にしんどかったです。そんな時に保健センターの「赤ちゃん訪問」があり、気持ちが楽になりました。今も月1回の育児相談を利用しています。専門家が一緒に子どもの成長を見てアドバイスしてくれるので、すごく安心できます。

honne 04
鷹野静穂さん
=富中=



日曜や祝日も
開いている
子どもの施設が
嬉しいです
鷹野静穂

日曜日に開いている施設は図書館くらい。日曜日に雨が降ると公園にも行けず、家かスーパーで過ごすことになります。テレビなどに頼ってしまうので、子どもにもよくありません。日曜日にも安心して遊べるスペースを解放してもらえると、うれしいです。私もママ友と話せるので、子どもも私もリフレッシュできます。

honne 02
安永絵美理さん
=内子1=



図書館の託児が
とっても嬉しいです。
安永 絵美理

4月から始まる図書館の託児がうれしいです。3人の子がいて、特に下の子はウロチョロするし、本を破ったらどうしようと、目が離せません。ゆっくりと自分の本を探したり、読んだりすることを諦めていたので、託児でちょっとの時間でも自分の読書時間ができるのは本当に助かります。

4人の子育てに奮闘中

Interview



大川 絵梨さん
=内子15=

4人の子育ては、めちゃくちゃ忙しいです。熱々のラーメンを食べる番組が異世界に感じるくらい(笑)。でも毎日、お腹が痛いくらい笑ったり、一緒に初めてのことを経験したり、兄弟で助け合う姿を見られたりと、4人いてよかったと思います。大変なこと以上にうれしいことや幸せなことがあります。経験して感じたのは、産後の孤独のつらさ。産むまでと同じ境遇の人と出会って共感し合えたら、もっと楽だったなと思います。産後はホルモンバランスが崩れて、しんどくなる時期で、私も2人目までは毎日泣いていました。幼児虐待の報道などを見ると、助けを求められる人がいたらよかったです、という思いに駆られます。一時預かりが活用できなかった経験もしました。3歳以上が対象で、4人目を妊娠した時、3人目は2歳。仕方なく産婦人科に連れて行ってしまった。子どもがもっと欲しくても、大変だからと諦める人もいると思います。「大変だけど頑張りたい」と思えるような、支えのある町であってほしいですね。

1年間、父親の育児休暇を経験

Interview



小河 卓也さん
=内子11=

父親の育児は、社会の雰囲気はまだというのが実感です。ネットで調べ物してもママが主体で、行政の案内文も女性を想定したものが多かったです。育児に悩んでいるときは、そんな些細なことでも落ち込みます。その大変さは言葉で説明するのが難しく、感覚で分かることが多い。だから具体的に声を上げることが難しく、それが難しいのだと気付きました。でも、子どもの成長と一緒に喜べるのは最高の幸せ。歩き始める瞬間とか、初めてコップ飲みをしたとか、できることが少しずつ増えるのを、この目で見ることは、仕事をしながらだと思いません。我が子のために試行錯誤して、自分自身も親として成長できました。父親が育児を取るかどうかは、家庭や職場の事情もあると思います。だからこそ夫婦で話し合って、一緒に子どもにとって一番いい方法を考えることが大切です。行政や社会は、その夫婦の思いが実現できるように、選択肢や支援を増やしてあげることが重要なのではないでしょうか。

悩みも喜びも分かち合う 内子の子育て支援

子育て支援に大切なこと。それは就労する女性や核家族が増える中、仕事と家事・育児を両立しながら心身ともに健康に生活できること。そして子どもの成長と一緒に喜んでくれる誰かがいることです。内子町は子育ての悩みも喜びも分かち合えるような町を目指します——

子育てしやすい、親子の笑顔があふれる町を目指して



Interview
こども支援課長
山本 勝利さん

「内子なら子育てしやすい」と言ってもらえるように、子育ての環境を整えるのが私たちの仕事です。それを実現するためには、物心両面で進めていくことが大事。給付だけでなく、保護者に寄り添って相談を聞く場や支援策をつくって、要望に応えられたらと考えています。4月からは児童クラブを2カ所増やして待機児童を解消し、新川児童公園など老朽化が進む施設を更新していきます。また子育て支援センターでは月1回、土日・祝日に開館する取り組みを始める予定です。これまで来られなかった人の利用機会が増えることを期待しています。育児の相談や意見を聞ける場を増やすことで、安心にもつなげたいです。私は母を早くに亡くしたけれ

ど、父の姉が祖母代わりになって私の子どもを大事にしてくれました。田舎だから、時代だからという理由もありますが、本当にありがたい支えでした。先日、町外から移り住んだ人が「親に頼れなくて心配だったけれど、内子は手厚い支援があつて助かる」と喜ぶ声を聞いて、昔のようなつながりの大切さを再認識したところです。4年度、内子町で生まれた子どもは45人で、前年の6割程度と激減したことなどが原因ですが、町の大きな課題です。今生まれている子どもたちが笑顔で暮らせることが、課題解決の一つの道と考えます。今年度は子育て世帯にアンケート調査をする予定なので、ぜひ皆さんの声をお聞かせください。

内子の子育て支援について、もっと知りたい人にはこんな冊子もあります



内子町安心子育てガイドブック

特集内で紹介しきれなかった内子町の子育て支援がぎゅっと詰まっています。子育て中の人はもちろん、それ以外の人にも一度は見てほしいガイドブックです。子育てに困ったときは、この冊子を開いてみてください。

ID 0130718



内子町子ども・子育て支援事業計画

内子町では「内子町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、さまざまな子育て支援に取り組んでいます。ニーズ調査の結果など、まちの子育て環境の状況などが分かります。5年度からは第3期計画の策定に取り組む予定です。

ID 0130730

正解のない子育てだから、心配や悩み、喜びもいろいろ。本当に大切な支援は、そんな思いに共感できることです。不安な気持ちに寄り添いながら、相談し合いながら、一緒に子どもたちの未来へ向かう。そんな伴走者のような町になって子どもとパパママの笑顔を見守りたい——